



令和7年12月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

調査船駿河丸によるキンメダイ漁場の海底地形調査を実施しました

10月28日から29日及び11月26日から27日の2航海を活用し、調査船駿河丸に搭載されたマルチビームソナー（FURUNO製）を使用した伊豆東岸のキンメダイ漁場の海底地形調査を行ないました。

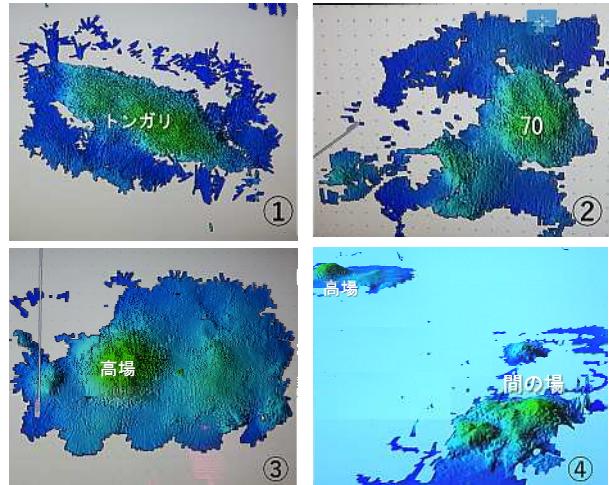
令和7年度は「トンガリ」「70周辺」「高場周辺」「間の場」の計4か所を測量したところ、昨年度得られた矢筈出し周辺と同様、既存の地形図や航路データでは分からなかった漁場の形が具体的に見えるようになりました。

伊豆東岸漁場では漁業者自らがキンメダイの資源管理ルールを定めてきた歴史があります。7年9か月継続した黒潮大蛇行が終息し、今後、キンメダイ漁の操業場所は変化していくと考えられますが、変動する海洋環境や漁獲状況に合わせた資源管理を考える際に、今回の調査結果がその一助になればと思います。

須崎青年部が藻場再生の取組を発表

11月14日、水産・海洋技術研究所（焼津市）にて静岡県青年・女性漁業者交流大会が開催されました。この会は県内の漁業者の日ごろの取組の成果を発表する場です。今年は伊豆漁業協同組合須崎青年部が「藻場の回復を目指して～一本釣漁師の願い～」と題して、試行錯誤を重ねながら藻場復活に取り組んだカジメ移植や水質調査について発表しました。部員のほとんどは釣漁業者ですが、先の黒潮大蛇行で打撃を受けた地元磯根漁業のために行なった活動内容が評価され、県漁連会長賞が授与されました。

今後も当場は須崎青年部の活動支援を継続していきたいと思います。



図：①トンガリ②70周辺③高場周辺④間の場

水産・海洋研究発表会でブダイをPR

水産・海洋技術研究所では、最新の研究成果を広く県民に知っていただくことを目的に、毎年「水産・海洋研究発表会」を開催しています。

今年度は11月12日に開催し、伊豆分場からは「ブダイはおいしい！～海中林復活に向けた藻食性魚類の利用促進の取組～」について発表しました。ブダイは群をなして海藻を食べ尽くし、海中が焼け野原のようになってしまうため、漁獲して数を減らすことが重要なのですが、ブダイは「臭い」等のイメージがあり、需要が低い魚です。そこで本発表では、適切な鮮度管理をすれば臭みはなく、おいしく食べられることを化学データを示してPRしました。

今後もこのような場を通じてブダイの利用促進を図り、海中林復活に繋げたいと思います。



←会場での
発表の様子

12月の予定 ●潜水調査（稻取、菖蒲沢、白浜、田牛） ●キンメダイ親魚捕獲調査（稻取） ●漁業士認定委員会（1日） ●マサバ・ゴマサバ資源評価会議（3日） ●キンメダイ一都三県事務局会議（3日） ●キンメダイ小型魚保護効果効果報告会・煙火講習会（5日） ●キンメダイ資源評価担当者検討会（12日） ●第2回長期漁海況予報会議（23-24日） ●相模湾漁海況研究協議会（25-26日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。